

## 6回生 古典B 授業のシラバス

<b>教科名</b>	国語	<b>科目名</b>	古典	<b>単位数</b>	3単位
<b>科目の目標</b>	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。				
<b>教科書</b>	高等学校 改訂版 古典B 古文編・漢文編（第一学習社）	<b>副教材</b>	みるみる覚える古文単語300＋敬語30（いずな書店） 体系古典文法（数研出版） 体系漢文（数研出版） 常用国語便覧（浜島書店） 学習課題集（古文編・漢文編／第一学習社）		

### 1 学習の目標

- (1) 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
- (2) 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
- (3) 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
- (4) 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。
- (5) 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。

### 2 学習の方法

- (1) 予習について
  - シラバスを用いて学習内容を確認し、学習ノートに次のことを予習する。
  - ①新しい単元に入る時は本文を全文読み、本文プリントをノートに貼付する。
  - ②古文の場合、品詞分解をし、わからない言葉を古語辞書を用いて全て調べる。（任意）  
漢文の場合、わからない言葉を文の構造に注意しながら漢和辞書を用いて全て調べる。（任意）
- (2) 授業について
  - ①古文の場合、文語の決まり（品詞と品詞の用法、活用、意味など）を理解し、文の構成を把握して、文章の展開や流れをつかみ、主題を理解したり、作品を読み味わうことを目標とする。
  - ②漢文の場合、訓読の決まりを理解し、基本的な句形や語や文の構成を把握して、主題を理解したり、作品を読み味わうことを目標とする。
  - ③文法を活用することで初見の文を読解する学びを重視する。予習②を任意としているのはそのためである。
- (3) 復習について
  - 学習ノートに次のことを復習する。
  - ①文語の決まりや訓読のきまりを駆使しながら、現代語訳を作成する。
  - ②単元の重点項目を習得したか、作品について理解したか、リフレクションシートにより確認する。

#### 〈学習アドバイス〉

○古文が読めるようになるためには、まず文語文法の知識と語彙力を身につけてはいけません。一つ一つの言葉の意味を理解することが一番のポイントです。次に、一文が長く、主語が明示されていないのが古文の特徴です。意味的なまとまりに分けながらあらすじをつかみ、時代背景や日本の伝統文化に興味を持ちながら読んでいきましょう。

○漢文が読めるようになるためには、まず訓読に従って正しく読め、句法の知識を身につけてはいけません。基本の文構造を把握できることが一番のポイントです。次に、漢字でだけで書かれていることが漢文の特徴です。インスピレーションをふんだんに働かせながら漢字の意味を類推し、読解を進めていくことが大切です。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	古典を読む楽しさを味わったり、伝統的な言語文化に触れることの意義を理解することを重視したりし、古典への関心を高めようとしている。
②読む能力	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、自分の考えを深めたり発展させたりしながら、古典としての古文と漢文を正確に読み取る。
③知識・理解	文語の決まりや訓読のきまりを理解し、また、文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙力を身につけている。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料	定期 考査	小 テスト	発 言 発 表	ノ ー ト	振 り 返 り
① 関心・意欲・態度		○		○	◎	◎
② 読む能力		◎		○	○	○
③ 知識・理解		◎	◎	○	○	

■本校で目指す生徒像と身につける資質・能力

高い知性						豊かな人間性			健康な心身		郷土愛と国際性	
探究心		情報活用力		調整力		自律心	寛容さ	感受性	生命尊重の心	強くなやかな心身	日本人としての誇り	多様性の尊重
関心・意欲	問題発見力	情報収集力	論理的思考力	共感的態度	意見交換・調整力							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
課題に関心を持ち、問題発見・解決へ向けて意欲的に取り組むことができる。	生じている問題や今後生じうる問題について理解し、解決方法を提案することができる。	多様な視点から必要な情報を収集し、整理・分析して、意見に結びつけることができる。	事象や関係を把握し、多様な情報を整理・分析し、論理的に思考することができる。	相手の感情、思考、行動を理解し、共感と調整し、意見を述べることができる。	他者の主張を理解し、自分の主張と調整し、互いに納得できる結論を得ることができる。	強い意志を持ち、周囲に流されることなく、困難に立ち向かうことができる。	異なる価値観や多様な特質を理解し、尊重しながら、互いを高め合うことができる。	有形無形の美や自然に対し、その価値を素直に受け止めることができる。	命の尊さと健康の大切さを理解し、何より自他の生命を尊重することができる。	困難に負けない強い心と体をもち、あらゆる課題に対して柔軟な対応ができる。	郷土に対する深い理解と愛着をもち、日本のよさを伝えることができる。	世界の多様性を理解し、多面的・多角的な視野から他者と接することができる。

4 授業計画（基本的には、週：漢文1、古文2の割合で学習していく）※理系クラスは漢1、古1

単元	学習内容	評価の観点	資質・能力
1. 随筆 (古文)	「二月つごもりごろに」 (清少納言『枕草子』：平安中期) 1. 各場面ごとの作者の対応の仕方を読み取る。 2. 和歌に込められた登場人物の心情を読み取る。 3. 既習の文法に基づいて、適切な現代語訳を作る。	①内容を適切に理解しようとしている。 ②各場面ごとの作者の対応の仕方、また、和歌に込められた登場人物の心情をそれぞれ正確に理解することができる。 ③文法の知識、語彙の知識が定着している。	AEFIM
2. 歴史 (漢文)	「孫臏」(司馬遷『史記』) 1. 登場人物の関係を理解して、内容を読解する。 2. 既習の句形に基づいて、適切な現代語訳を作る。 3. 孫臏と龐涓の人間関係を正確に理解し、歴史書鑑賞の態度を養う。	①内容を適切に理解しようとしている。 ②登場人物の関係を、既習の句形を理解した上で正しく現代語訳し、孫臏が龐涓を破った経緯を理解することができる。 ③句形の知識、歴史的背景の知識が定着している。	ADE
3. 評論 (古文)	「紫式部のこと」 (伝藤原俊成女『無名草子』鎌倉前期) 1. 『源氏物語』成立までの過程を読み取る。 2. 既習の文法に基づいて、適切な現代語訳を作る。	①『源氏物語』成立までの過程を理解しようとしている。 ②『源氏物語』成立までの過程を正確に理解することができる。 ③文法の知識、語彙の知識が定着している。	ABDF
4. 漢詩 (漢文)	「責子」(陶潜) 「石壕の吏」(杜甫) 1. 古体詩の形式と内容の多様性、主題の普遍性を読む。 2. 時代背景を念頭に、詩に込められた作者の心情を読み取る。 3. 適切な現代語訳を作ることができる。	①繰り返し朗読し、表現に親しんでいる。 ②近体詩で学んだことをふまえ、古体詩を正確に読み鑑賞できる。 ③古体詩の知識、語彙の知識が定着している。	ACEIM
5. 物語 (古文)	「菅原道真の左遷」(『大鏡』：平安中期) 1. 作中の人物像を適切に読む。 2. 大鏡から読み取れる批判的精神を理解する。 3. 既習の学習事項に基づいて、適切な現代語訳を作ることができる。	①三首の和歌と一首の漢詩を適切に理解し、道真の心情を理解しようとしている。 ②時平と道真の人物像を読み取った上で、作者の批判的精神を理解することができる。 ③文法の知識、語彙の知識が定着している。	ACEI
6. 文章 (漢文)	「為学」(『白鶴堂文録』彭端淑) 1. 漢文特有の簡潔な表現を味わう。 2. 逸話の用い方、構成の巧みさを理解する。 3. 既習の学習事項に基づいて、適切な現代語訳を作ることができる。	①清代の知識人の文章に親しもうとしている。 ②逸話から筆者の学問観を理解してする。 ③語彙・語法の知識が定着している。	ABDF
7. 演習	共通テスト対策演習(古文、漢文)		

※授業内容を前倒して行う場合があります。

※【関心・意欲・態度】→①、【読む能力】→②、【知識・理解】→③として表現しています。

## 5 評価規準

### 随筆（古文）

観 点	評価規準
①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要語句の意味を古語辞典で調べている。</li> <li>随筆に接し、積極的に内容を理解しようとしている。</li> <li>読解を深めることによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くしている。</li> </ul>
②読む力	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を適切に口語訳している。</li> <li>内容を構成や展開に即して理解している。</li> <li>作者の思想や感情を読み取っている。</li> <li>日記的章段と随想的章段の違いを理解し、それぞれの内容を読み取っている。</li> <li>随筆の内容のおもしろさを理解している。</li> </ul>
③知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を正しく音読している。</li> <li>「に」の語形について、文法的に識別している。</li> <li>副助詞「さへ」の基本的な意味・用法を理解し、解釈にいかしている。</li> <li>助動詞の音便・連接について理解している。</li> <li>『枕草子』について、文学史上の基本的な知識を確認している。</li> </ul>

### 歴史（漢文）

観 点	評価規準
①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦国時代と秦末の時代背景について調べている。</li> <li>本文中の語句について、漢和辞典で調べている。</li> <li>訓読しながら本文の話の展開と内容を理解しようとしている。</li> </ul>
②読む力	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改めている。</li> <li>脚注を参考に話の内容をとらえている。</li> <li>登場人物の言動と心情について、話の展開にそって読み取っている。</li> <li>否定・限定・使役・疑問・感嘆・仮定・反語・願望などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をしている。</li> </ul>
③知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>『史記』の成立事情や内容についての概要を理解している。</li> <li>戦国時代、秦末～漢の歴史的背景について知識を得ている。</li> </ul>

### 評論（古文）

観 点	評価規準
①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要語句の意味を古語辞典で調べている。</li> <li>人物評論に接し、積極的に内容を理解しようとしている。</li> <li>清少納言・紫式部について、自分なりのイメージを持っている。</li> <li>内容に該当する『枕草子』『紫式部日記』を、読み合わせている。</li> <li>手紙について自分なりの意見を持ち、発表している。</li> </ul>
②読む力	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を適切に口語訳している。</li> <li>内容を構成や展開に即して理解している。</li> <li>作者の思想や感情を読み取っている。</li> <li>『源氏物語』成立事情に関する二つの説を理解している。</li> <li>人物評論の内容のおもしろさを理解している。</li> </ul>
③知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を正しく音読している。</li> <li>副詞「いかで」の基本的な意味・用法を理解し、解釈にいかしている。</li> <li>『無名草子』について、文学史上の基本的な知識を持っている。</li> <li>清少納言と紫式部、『枕草子』と『源氏物語』について、文学史上の基本的な知識を持っている。</li> </ul>

### 漢詩（漢文）

観 点	評価規準
①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩の作者と出典について調べている。</li> <li>詩の内容を理解するために漢和辞典を積極的に活用している。</li> <li>詩にうたわれた状況を把握して、詩の内容の理解を深めようとしている。</li> <li>詩句を暗誦しようと努めている。</li> </ul>
②読む力	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢詩のリズムを意識しながら、正確に音読できる。</li> <li>仮定・疑問・反語などの句形の読みと意味とについて理解し、それに即して口語訳をしている。</li> </ul>
③知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>古体詩について、近体詩との違いをふまえながら理解している。</li> <li>作者が詩をよんだ状況を知り、詩に表れた心情・作者の表現している内容について理解している。</li> </ul>

## 物語（古文）

観 点	評価規準
①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要語句の意味を古語辞典で調べている。</li> <li>・歴史物語に接し、積極的に内容を理解しようとしている。</li> <li>・登場する歴史上の人物について調べたり発表したりしている。</li> </ul>
②読む力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を適切に口語訳している。</li> <li>・内容を構成や展開に即して理解している。</li> <li>・登場人物の行動と心情を読み取っている。</li> <li>・話の内容のおもしろさを理解している。</li> <li>・『大鏡』の戯曲的な構成について理解している。</li> </ul>
③知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を正しく音読している。</li> <li>・敬語の基本的な意味・用法を理解している。</li> <li>・「して」の語形を識別している。</li> <li>・『大鏡』について、文学史上の基本的な知識を確認している。</li> </ul>

## 文章（漢文）

観 点	評価規準
①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清代の知識人の文章に親しむ。</li> <li>・話の展開を把握し、内容を読み取る。</li> <li>・登場人物の言動の理由や、そのときの心情について理解する。</li> </ul>
②読む力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清代の時代背景について調べている。</li> <li>・本文中の語句について、漢和辞典で調べている。</li> <li>・訓読しながら本文の話の展開と内容を理解しようとしている。</li> </ul>
③知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清代の時代背景や文人について知識を得ている。</li> <li>・筆者の視点・執筆意図を意識して内容を理解している。</li> </ul>